

環境白書

平成 20 年 版

青 森 県

平成20年版「環境白書」の 刊行にあたって



私たちのふるさと青森県は、三方を海に囲まれ、地球上で最大規模のブナの原生林を有する世界自然遺産白神山地をはじめ、緑豊かな八甲田山、澄んだ水をたたえる十和田湖などの美しい自然が溢れ、また、きれいな水資源や、安全・安心で品質の良い農林水産物、多様なエネルギーなどにも恵まれています。

一方で、地球温暖化、資源の浪費、生態系への影響など、近年、地球規模での環境問題が深刻化しつつある中で、私たちは、今の生活のあり方を根本からみつめ直す時期を迎えています。

県では、このような時代の転換期にあって、青森県の未来を切り拓いていくため、「生活創造社会」を本県の将来像とした「生活創造推進プラン」により、諸施策を推進してきました。そして、このプランの下で育ててきた良い芽を強く大きく育てるとともに、時代の変化に対応し、新しいものにチャレンジしていくため、今般、「青森県基本計画・未来への挑戦」を策定しました。

恵み豊かな美しい環境を次世代へ誇れる財産として守りつつ、自然環境や地域固有の技術、優れた人材など、私たちの持つ資源や可能性を見つめ直し、それを最大限に生かし、育てていくことは、私たちの大切な使命です。

新しい計画では環境分野について、青森県と言えば「環境」、「環境」と言えば青森県と言われるような戦略的取組を積極的に推進し、「低炭素・循環型社会の形成」を目指すこととしています。今後とも「生活創造社会」の実現に向け、青森らしさを創る財産であり、暮らしやすさの基盤でもある本県の「環境」を県民の皆さんと一緒に守り育てていきたいと思えます。

この環境白書は、平成19年度の本県の環境の状況と環境施策の概要を中心に取りまとめたものです。本書が、県民の皆様幅広く活用され、環境問題について一人ひとりが関心を高め、青森らしい豊かで美しい自然環境と快適な生活環境の保全と創造に向けた具体的な取組を進めるための契機となることを期待いたします。

平成20年12月

青森県知事 三村 申吾

環 境 方 針

基本理念

自然は、生命をはぐくむ母体であり、私たちにさまざまな恵みを与えてきました。青森県の豊かな自然は、県民にとってかけがえのない重要な、また、有限な資源です。今後とも、県土の利用に当たっては、地域の自然環境の特性に十分配慮し、青森県の豊かで美しい自然とそのもたらす恩恵を21世紀の子どもたちに伝えていきます。

また、公害の防止、省エネルギー、リサイクルや廃棄物の適正処理を進めることにより環境への負荷の少ない持続的に発展することのできる循環型社会の創造をめざします。

さらに、豊かな緑、清らかな水辺、美しい街並み、歴史的・文化的遺産などがバランスよく備わった環境は、人間性豊かな生活を保証し、地域の活性化を推進していく基盤ともなるものです。また、雪国である青森県にとっては、雪を克服し、これを楽しみ、利用していくことが、快適な雪国の暮らしを確保するためには重要です。

以上のように、県は、自然環境の保全や公害の防止、廃棄物の適正処理を図るとともに、歴史的・文化的環境を生かし、より質の高い快適な環境を創造していきます。

この理念の実現に向けた取組を一層進め、県自らの事務・事業から生じる環境への負荷の軽減を図るため、環境マネジメントシステム（ISO14001）を導入し、職員一人ひとりが環境保全の自覚を持って着実に取り組んでいきます。

基本方針

県は、基本理念をもとに、自らが地域における大規模な事業者であることを認識し、次に掲げる取組を推進します。

1. 「青森県環境計画」に掲げる施策を積極的に推進します。
2. 県が行う事務・事業が環境に与える影響を総合的に把握し、環境への負荷の低減に努めます。

特に、次の項目については、重点的に推進します。

- (1) オフィス活動によって生じる環境負荷の低減
 - (2) 公共事業の執行に伴って生じる環境負荷の低減
3. 環境に関連する法令その他の合意事項を遵守し、環境汚染の予防に努めるとともに、職員の環境に対する意識の向上を図ります。

以上の取組について、環境影響の大きなものについては環境目的・目標を定め、定期的な見直しを行うことにより、継続的に改善を進めます。

この環境方針を全職員に周知するとともに、広く一般にも公表します。

平成19年5月22日

環境管理統括者

青森県知事 三 村 申 吾